

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000096		
法人名	特定非営利活動法人 りあらいず和		
事業所名	郡上乃風グループホーム 清流の家		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初納字堂前397番地1		
自己評価作成日	令和2年2月13日	評価結果市町村受理日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JievosvoCd=2191000096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生まれ育った郡上の地で季節を感じながら馴染みの顔や行事、郡上弁の仲で穏やかにゆっくり楽しく「家」の様に過ごせるように寄り添った支援を心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、様々な部門で事業を展開している法人の2件目のグループホームとして、昨年6月に開設されている。管理者と職員は、他施設と連携しながら、子どもや障がい者、高齢者が笑顔で生き生きと暮らせるよう支援に取り組んでいる。また、法人として、岐阜県のワーク・ライフ・バランス推進企業の認定を受け、地域住民の子育て支援、従業員の育児と仕事の両立など、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。今回、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、小中学校などが一斉に休校になり、子どもの居場所として、事業所の空き部屋を提供するなど、地域のニーズにいち早く行動している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者も職員も郡上弁の馴染みのある言葉でコミュニケーションがとれている。	理念は「自分の家族や自分が受けたくなる介護サービスの実践」としている。令和元年6月に開所し、職員は法人理念について、理事長、管理者から定期的に学び、正しく理解し、申し送りなどで振り返りながら実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を、職員や訪問者の目につきやすい場所に掲示し、常に理念を意識することができる環境作りに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、おはやしクラブが施設訪問し、利用者が鑑賞できる機会を作る。	自治会に加入し、地域行事の情報を得ながら、地域の一員として参加し、開所1年未満であるが、地元の祭りでは神輿が回ってくる。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策で、小中学校などが一斉休校となり、空き部屋を利用して子どもの居場所を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の面会者や、施設見学者に認知症についての理解や支援の方法をお話する機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者の状況やサービスについて報告を行い、意見の中でサービス向上に活かしている。	運営推進会議は地域代表、民生委員、行政が参加し利用者の状況や活動計画、ヒヤリハットの事例報告をし、意見交換を行っている。利用料についての質問には、分かり易く説明している。利用者同士が楽しく話す時間を設けてはどうかなどの意見には、前向きに受け止め運営の参考にしていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市役所との連絡を取り、事業所の取り組みを積極的に伝え、協力関係が築けている。	運営推進会議で地域高齢者の現状、介護保険の動向など意見交換をし、困難事例については、助言、指導を得ている。法人内の複数事業と共に、行政と連携を図りながら、行政主催の研修等に積極的に参加し、利用者サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に「身体拘束なしの同意書」を家族に記入していただき、施設全体で身体拘束をしないケアを徹底している。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、職員も具体的な場面を想定した研修を行っている。日常業務を優先し、利用者本位のケアが疎かになっていないか、言葉や心の拘束等を無意識に行っていないか等、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に積極的に参加し、職員会議にて虐待防止について話し合う機会を設けている。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム 清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に積極的に参加し、職員会議にて話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、ご本人・ご家族に十分な説明をひ、理解をしていただける様、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、意見・要望を気軽に話せるような体制、接遇に心がけている。	毎月、家族宛てに通信を送付して担当職員が利用者の様子を伝え、意見を聞いている。家族の訪問時には、できる限り利用者の状態を報告し、家族との信頼関係の構築にも努めている。家族から、職員間での情報の共有化や、散歩や体を動かす取り組み等の要望があり、個別ケア計画作成に取り入れている。	申し送りノート等で情報の共有を図っているが、家族が職員に伝えたことが他の職員に伝わっていないことがある。個人情報に配慮しながら、ボードを活用するなど、確実に職員間で情報を共有する工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させられるように会議等の場で職員の声を大切にしている。	理事長は、定期的に職員の意見や要望を聞く時間を設け、それらの提案を運営に活かしている。管理者も介護業務に就きながら、職員の希望を日常的に聞き、迅速に対応している。岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業の認定を受け、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の日々の業務への取り組みを理解し、人事考課を元に実績・勤務状況等も把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の日々の会話や、人事考課の際、働きながらトレーニング出来る様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護カフェや、ネットワークへの参加の機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画作成時、本人が困っていること、不安なこと、要望に常に耳を傾けて、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画作成時、家族が困っていること、不安なこと、要望に常に耳を傾けて、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画作成時、本人・家族が必要としているニーズを見極めて、支援方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人等の面会者も受け入れ、これまで大切にしてきた馴染みの人が途切れないように支援している。	知人や親戚の訪問が多くあり、ゆっくり話ができるよう環境を整えている。定期的に訪問する美容師は、複数の利用者と元々、知り合いでもあり、馴染みの関係が継続できている。個別の希望は家族に連絡し、協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係も良くなるように、一緒に行事を行ったり、日々の何気ないひと時も、関わりあえる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者、家族、職員が、その土地の方言で会話してこそ、一つの家族になれると捉えている。職員は、利用者の思いや意向の把握に努め、自分の家族や自分が受けたい支援の提供に取り組んでいる。困難な場合はゆっくり時間をかけ、表情で話の糸口を見つけ、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、職員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、支援に繋げている。	入居時に、ケアマネジャーが家族の思いや意向を聴き、暫定的な計画で支援を行い、モニタリング後に、チームで介護計画を作成している。変化が生じた場合は柔軟に見直し、家族の要望を具体化した計画につなげている。また、今後も家族参加でケア会議が開催できるよう、取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応し、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム 清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴等から活かせる地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望を大切にし、入所前からの主治医に引き続き受診してもらいようにしている。	契約時に、かかりつけ医について、利用者と家族に説明し、個々に主治医を選択をしている。受診は家族が担当が、事業所は、日常の健康状態を文書化して主治医に伝え、医療情報を共有している。緊急時には、事業所で適切な医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も同じ立場で、同じ現場に立ち、互いがいつでも連携できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際も、病院の相談員を連携を取り、入院中・退院後についての支援も情報交換しながら、スムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方も早い段階で家族と話し合い、相談し、事業所で出来る事を十分に理解してもらえよう方針を共有している。	契約時に、重度化や看取りケアについて説明し同意を得ている。重度化して、常時、医療行為が伴う場合には、早い段階で家族や関係者で話し合い、方針を共有している。現段階では看取り介護は行わず、利用者や家族が不安のないよう、次のステップへの情報を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は各マニュアルにて周知し、定期的な訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時も昼夜問わず、対応出来る様にマニュアルにて周知。他事業所との連携もとれる体制にしている。	夜間想定を含め、消防署指導のもと、防災訓練を実施し、避難誘導や器具の取り扱い、通報などを行っている。ヘルメットや最低限必要な備蓄品を準備している。地震を想定した避難訓練も行っており、今後は、土砂災害・水害時を想定した訓練も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを守った言葉かけや、対応をしている。	職員は、日頃使っている郡上弁で利用者と会話し、皆が笑顔で穏やかな時間を共有しながら、ほっこり温かい「家」となれるよう取り組んでいる。また、個々の意思や自己決定を尊重し、本人の望む暮らしの実現に向けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で、その人のペースを大切に、日々の過ごし方を希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、一緒に服を選んだり、訪問美容院等で身なりも整えられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、季節にあった食事づくりや、行事を行っている。	昼食と夕食は、法人が運営している就労継続支援事業所からの配食サービスを利用し、朝食は事業所で調理している。食事は、利用者の嚥下状態に配慮した形態や量になっており、品書きも添えられている。季節の行事食は、利用者も職員と一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を一日一日しっかり記録し、一人ひとりの状態や把握し、支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔エアを介助や声かけによって実施している。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム 清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導、パット・オムツ交換を行い、排泄を習慣づける様支援している。	排泄記録から、利用者の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導で支援を行っている。トイレでの排泄が習慣になったことで、紙パンツから布パンツにかわり、排泄用品の使用量の軽減に繋がった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や、水分量による排便コントロールを職員・看護職で相談しながら、一人ひとりに合った便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、曜日や時間を設定している。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。個浴と機械浴が設置され、安心して入浴を楽しむことができる。職員は、個浴の場合も利用者とのコミュニケーションを図りながら、見守りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を理解し、その時々に応じて、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を把握し、職員と看護職が連携し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活動や、季節ごとの行事によって、その人の役割や、楽しみを味わってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ十分ではないが、買い物への外出や、行事での外出等をもっと計画していきたい。	テラスのある居室もあり、天気の良い日は、利用者が思い思いに日光浴を楽しんでいる。日常は近隣の散歩、外気浴など、個々に適した支援を行っている。今後は買い物や郡上の地で季節を感じながら、様々な外出支援を行うことを職員間で話し合っている。	

岐阜県 郡上乃風グループホーム 清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としての管理は施設で行い、本人が使用したい時に、買い物等で使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人と電話での連絡や手紙でのやり取りが行える体制にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、生活感や季節感を大切にしたい、飾りや掲示物により、居心地良く過ごせるように努めている。	共用の空間は広く、2ユニットを自由に往来ができる。リハビリを兼ねた散歩コースとしても利用している。廊下も広く、車椅子や歩行器の利用者が安心・安全に移動ができる。くつろげる掘り炬燵コーナーもある。利用者の作品などを掲示し生活感や季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、一人ひとりが思うように過ごせるような、余裕のあるゆったりとしたペースを大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人がこれまでに使いなれた物、お気に入りの物がおける様、家族とも相談しながら、家と変わらない居心地を心がけている。	テラス付きの居室もあり、窓から川が眺められ開放感ある居室である。電動ベッド、クローゼットが設置され、十分な広さが確保でき安全に利用できる。適切な照明で居心地よく生活ができる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全で過ごしやすい空間を心がけている。		